

大分南部地域まちづくりビジョンフォローアップ会議通信 第2号

発行：令和3年1月16日 大分南部地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、進捗状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

【フォローアップ会議を開催しました】

日時：令和2年10月28日（水）19時～

場所：大分南部公民館 研修室2・3

議事

1. 会議の公開について
2. 地域まちづくりビジョンについて
3. 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
4. 地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
5. 地域での取組状況の報告について



■地域まちづくりビジョンに掲げる事業における行政の取組状況について（抜粋）

○提言1「住み続けたい、帰ってきたい地域づくり」

- ・片島・津守・曲地域の居住環境の改善に向けた将来的な整備構想が必要と考え、地元役員と地区内を歩き「道路整備に関する要望」について要望内容を確認した。今後、課題の解決策等について地域との意見交換会で協議していく。
- ・片島岡線については、建物等移転補償、用地買収を実施している。また、曲などの地域内の狭隘道路などは、要望に応じ、待避所や交通安全施設の整備を行っている。
- ・新駅に関して、市では、関係課による「鉄道新駅設置研究グループ」を設置し、課題の共有を図るとともに、来年度当初予算の編成に向け、庁内調整を進めている。

○提言2「地域の歴史的・文化的遺産などを生かした地域交流の充実」

- ・地域の史跡を案内・解説する史跡めぐりサポーターを育成し、史跡巡りウォーキングを実施する際に、ガイドをしてもらう事業を実施する予定。
- ・下郡公園については、今年度より防災機能を備えた公園としての整備を実施しており、令和3年度完成する予定。

○提言3「災害に備えた取組の推進」

- ・片島及び羽田地区の浸水対策としての片島雨水排水ポンプ場は、令和4年度供用開始する予定。また、北下郡地区での災害排水ポンプの設置について検討している。

■地域での取組状況の報告について（抜粋）（委員より以下の取組状況の報告がありました。）

○大分滝尾駅間の新駅建設及び下郡公園の建設について

【新駅建設】

- ・これまで長年、新駅の建設を求め、下郡駅という形で取組んできたが、新駅の建設を強かに推進し、地域一体となった機運醸成のため昨年11月に、「大分・滝尾駅間新駅建設促進期成会」を設立した。
- ・令和2年3月に大分市議会へJR豊肥本線（仮称）宗麟大橋東口駅設置を求める「請願」を提出し、その後、令和2年6月に新駅建設の「請願」が採択された。
- ・令和2年5月に境日公園前に「宗麟大橋東口に新駅を！」の看板・のぼり旗を設置した。
- ・令和2年7月にJR大分支社長へ新駅建設の要望書を提出した。
- ・こうした活動を展開する中、滝尾地域の発展につながる新駅の建設に向け、皆さんの支援と協力をいただきながら進めていけるよう努力していきたい。



【下郡公園】

平成30年8月よりワークショップを4回実施するなど、地域の意見も出し、大きな成果として現れている。公園の名称を地域から市へ提案するのでよりしくお願いしたい。

○下郡っ子いきいき倶楽部の活動について

- ・「下郡校区の児童の健やかな育成を目指し、校区内の人材を活用し、児童に様々な体験活動を展開することで、世代間交流やジュニアリーダーの育成さらに、安全で住みよい町づくりに寄与する。」ことを目的に、平成18年に設立した。
- ・自治会、民生委員、地区・校区公民館、PTA、地域住民等で構成し、木工、竹細工、科学実験、手芸、神楽、囲碁、ふるさと菓子作り、もちつき大会等の活動を行っている。
- ・年々定着し子どもたちは毎年楽しみにしており、地域の方々の新たな生きがいとなっている。地域と学校が一体となって取組むこの活動を通して、地域住民と子ども、保護者の交流が深まっている。
- ・指導者の高齢化、後継人材の確保という課題があるが、地域づくりを担う他の組織団体との連携を強化し、活動を発展させていきたい。



○史跡めぐりウォーキング並びに子どもガイドの育成について

- ・子どもガイドの募集が課題であるため、対象を小学4年生から中学2年生までと広げる。また、子どもガイドと別に大人まで対象者を広げてガイドを募集したい。
- ・史跡めぐりウォーキング実行委員会への協力を地域の各種団体をお願いする。

■意見交換での主な内容（抜粋）

- ・防災に関する情報の地域への提供等は、地域の防災組織の実態に合せた配慮をお願いしたい。
- ・ビジョンの中で下郡公園が一番形になっている。地域の意見も聞きながら多目的に使えるように具体化してくれて、とても夢のある使い勝手の良い公園になりそう。
- ・下郡公園の整備後に、地域でどのように活用していくかということも今後課題として考えていかなければならない。
- ・行政と地域が一体となって、提言の実現に向けいろいろな形で進めていかなければならない。

●【大分南部地域】

「ふれあい市長室～あなたの地域のまちづくりビジョン」
今年度は、地域でまちづくりビジョンに関連した活動を行う団体を対象に、活動報告と意見交換を行います。
大分南部地域の対象団体：「下郡っ子いきいき倶楽部」
開催時期：1月下旬

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、大分市においても、人口が減少に転じており、地域の活力維持や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題解決のためには、行政が地域の現状を的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えております。

このような状況を受け、この大分南部地域では地域の活力維持・増進を図ることを目的に、地域の代表者で構成する「地域ビジョン会議」を平成29年5月に設置し、地域の現状や課題などを議論し、地域の将来像として「大分南部地域まちづくりビジョン」を平成30年7月に策定しました。

地域の目指すべき姿(将来像)～自然豊かな温故知新を体感できるまち～

【提言1：住み続けたい、帰ってきたい地域づくり】

住民がいつまでも住み続けたいような地域、そして、一度地域を離れた人もいつか帰ってきたいと思えるような地域づくりを望みます。また、子どもから高齢者まで幅広い世代が、いつまでも安心して暮らせるような地域づくりを望みます。

【提言2：地域の歴史的・文化的遺産などを活かした地域交流の充実】

地域に残る滝尾百穴などの歴史的遺産や神楽などの文化的な需要が高い本地域の魅力を最大限に活かし、地域住民同士や地域外の人とも世代を超えて交流できる取組を継続・充実させ、豊かな自然とともに、地域の資源を一体的に堪能できる仕組みづくりを望みます。

【提言3：災害に備えた取組の推進】

南海トラフを震源とする巨大地震とこれに伴う津波や、大雨による河川のはんらんなどへの備えとして、住民による自助はもちろん、地域における共助や国・県・市における公助も重要です。特に、大分川に面している地域として、水害に対して直ちに避難できる安全の確保を望みます。

提言	事業番号	事業名	内容
提言1	1	子育てしやすい住環境の整備	地域内の道路が狭く、通学路を通り抜ける車も多いため危険です。また、地域に子どもが少なくなっており、地域活性化と住環境の改善が必要であることから、道路、駅、公園などの整備を行う。
	2	JRの線路を利用して富山方式の路面電車を走らせる	大分駅から大分大学駅の間に、3～400m間隔で新駅を設置し、路面電車を走らせることで観光客を集めることができ、高齢者にも優しい公共交通となります。
	3	滝尾駅前の広い空地を活用	滝尾駅北西の空地を有効活用できるようにしてほしい。市からもJRに働きかけをしてほしい。
	4	下郡駅の開設とその沿線に防災公園のある桜並木道の整備	歴史に裏打ちされた地域の観光資源を活かすため、人が集まりやすくなる新駅、沿線道路の整備を行う。宗麟大橋の開通により交通量が増加しているため、渋滞の緩和にもつながる整備を行う。
	5	利便性に富んだ街づくり	曲などの地区内の狭い抜け道を通る車が多く危険なため、バイパス道路を整備する。
提言2	6	豊富な歴史を活かした旧跡めぐり子どもサポーターの育成	南部地域の豊富な歴史資源を活用するため、百穴や曲石仏などの地域の歴史を伝える旧跡めぐり子どもサポーターを育成する。郷土愛の醸成につながり、歴史探索などで多世代が交流でき、子育てサークルなども楽しめる機会の創出につながる。
	7	子育てサロン・地域ふれあいサロンなど未来へつなぐコミュニティの充実・拡充	開催回数の増加や対象者、対象地域の拡大など、子育て世代もそれ以外の人もいきいきと交流しやすい環境の整備を行う。
提言2・3	8	下郡に新たな公園整備	3校区の子どもが集まれるような公園を整備し、人が集い、子どもが安心して遊べる拠点とする。駐車場や駅に近接した公園を中心に、地域の活性化を図るとともに、防災公園として防災情報の発信等も行う。
提言3	9	児童と高齢者が安全に避難できる避難設備(インフラ)の整備	避難拠点となる避難所などへの周辺道路の幅員確保などの整備を行う。緊急車両が入れない道路の拡幅、排水路整備など安全安心に資する整備を行う。
	10	安心・安全な地域づくり	昨年の台風18号により地域内では床下浸水が発生したこともあり、防災に役立つ情報を地域の人たちで共有するとともに、防災人材の育成などにより、防災意識の向上に役立てる。